シニア団体活動支援事業は、元気な高齢者が地域の活動に参加するきっかけをつくり、高齢者の社会参加と自主的活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを目的としております。この広報誌では、年齢を感じさせず、いきいきと活動している本事業登録団体をご紹介します。

鹿島文化財愛好会

市町村	南相馬市鹿島区
連絡先	0244-46-3037
活動内容	歴史・文化財の収集と保護並びに地方文化の振興支援
代表者	会長　伏見裕方（ふしみやすまさ）
会員数	41名
年齢構成	60～92歳
活動場所	役員会…毎月第1水曜日 午後1時30分～午後3時30分 研修会…年間10回程度（史跡巡り等）
会費	年会費2，000円 （その他、研修旅行等の実費）

〈古代文化の里である鹿島地域〉

設立46年目を迎える本会は、地域の郷土文化を守り・伝えていきたいという思いから活動を続けてきた。鹿島区内各地には国指定の史跡や古墳群が集中している。また、歌人・笠女郎（かさのいらつめ）が万葉集編者の一人とされる大伴家持への思いを詠んだ歌の中で「みちのくの真野の草原」としてこの地域を詠んでおり、県内の地名を詠んだ万葉歌のうち作者が判明しているのはこの歌だけであるとのこと。

前列左から2番目が会長の伏見裕方氏。取材日は月1回の役員会の日で、役員の方々から鹿島の文化財に対する熱い思いが語られた。

平成28年度に発行した愛好会会報の「かや原」。地域の中に建立されている石碑を一つ一つ調べ上げた。

〈この地域に生きる者として〉

震災後に、鹿島区内各地に点在する石碑（報徳碑及び頌徳碑）を調査し一冊の本にまとめた。地区によっては津波の影響で倒壊・流出し、調査が困難なものもある中で、会員が一丸となり調べ上げた。先人の思いに触れたい・残したいという熱い思いのもと、震災後だからこそ地域に生きる者としての使命感において進められた事業であった。今後は会員のみならず、地区の方々も一緒に地域の過去の偉業を知ることで、同じこの地に生きる者としてその思いを共有していきたいとのことであった。

平成30年度に市民の方々を対象とした「史跡巡り」。募集するとすぐに集まるとのことで、関心の高さが伺える。

蓬莱押し花サークル

市町村	福島市
連絡先	024-549-1599
活動内容	押し花を使ってカード、風景画やフラワーアレンジの額作成
代表者	会長　久能正子（くのうまさこ）
会員数	11名
年齢構成	63～77歳
活動場所	蓬莱学習センター本館
日時	毎週月曜日　10時～13時
会費	年会費1，000円 月会費1，500円

〈花のように穏やかな活動時間〉

毎週月曜日の10時から3時間、季節ごとにテーマを決めて、押し花を使った作品作りを行う。集中しながら作品づくりを進めているものの、「あなたのこの色、素敵ね～」「私のこの花をここに使えば？」などと声を掛け合い、和気あいあいとしながら進められる。集中した頭を休める、途中のモグモグタイム（休憩時間）には、それぞれの作品を鑑賞しながら、さらにおしゃべりに「花が咲く」。

前列中央が講師の斎藤なか氏。前列右端が久能正子会長。お二人が中心となり会の運営を行っている。

毎週月曜日、作品作りに集中する3時間。モグモグタイムを挟むとあっという間に過ぎてしまう。

〈人生を表す作品たち〉

押し花インストラクターの資格を持った講師の斎藤氏を中心に、年2回、地区文化祭への出展や作品展への出品を目標に作品づくりを行っていく。同じテーマで同じ作品を作っていても、その人の性格や感覚、さらには人生がその作品に表れるのが面白さであるとのことである。今後はボランティアなども行い、サークルの活動は幅を広げていきたいとのこと。「私達の作品を見てもらえる機会をもっと増やしていきたいですね」と会長の久能さんはおっしゃられていた。

花が好きで自分の庭で育てた花を残したい、生け花で使った花を活かしたいなど、その想いはさまざま。

元気な町内会の活動報告（高齢者支え合いコミュニティ支援事業）

福島県では平成28年度から、元気な高齢者が身近な地域で社会活動に参加するきっかけをつくり、健康でいきいきと生活している町内会の取組を支援しています。本年度支援団体をご紹介させて頂きます。

桝形団地自治会

〈桝形団地自治会について〉

昭和40～50年にかけて造成された団地で、その頃に移り住んだ世帯が今は高齢者世帯となっており、さらには一人暮らしの世帯も多くなってきている。一方で自治会独自の行事も最盛期に比べて少なくなり、それにより地域住民の交流の機会が減ってきた。長年、地域で暮らしてきた人たちにとって、地域同士での支え合いや「共助」の大切さを改めて感じ、自治会活動を少しずつ増やしていきたいと考え始めたのがここ数年の動きである。

会長の宮本幸夫さんは「自助･互助･共助･公助」の中でも、“たがいに助け合う（共助）”を大切に伸ばしていきたい」と話す。

〈週１回のふれあいサロンから始まる活動〉

地域の集会所での「桝形ふれあいサロン」は、週１回百歳体操の実施や茶話会をとおしてお互いの近況を話しあい楽しい時間を共有する場となっている。また、サロンで会話の中からでた「ひとり暮らしの○○さんの家では～に困っている」に対して、自治会有志による支援も今年度から始まり、ひとり暮らし高齢者宅の高枝剪定や電球交換などを行った。その有志の名も「世話焼き隊(仮)」。こちらもこれからどんどん活動を広げていきたいとのことである。

「桝形ふれあいサロン」、運動後の茶話会の様子。取材日は、今後やってみたい活動について話し合いを行っていた。

〈共に助けることを大切にしながら〉

この夏、地域の小学生だけで行っていた「夏休み朝のラジオ体操」に地区の住民も参加し、お互いの顔を覚えて世代間交流や地域の防犯力の向上へとつながるいい機会となった。また、団地内には浪江町の復興住宅があり、その住民にも地域の各活動に参加してもらうことで交流を図る場となっている。

地域独自での支え合いは行政の手が届きづらい部分もあり、それをどうしていくか桝形団地自治会は進め始めている。「自助・互助・共助・公助」の部分を大切にしながら、自治会として活動していきたいとのことである。

市 町 村	本宮市		
代　　表	会長　宮本幸夫（みやもとゆきお）		
加入世帯数	133世帯	所属人数	391名

「桝形子ども秋祭り」。桝形団地内のみで行うミニ秋祭りは、長年続いている。

「世話焼き隊(仮)」の皆さん。集会所の草刈りから始まり、一人暮らし高齢者の支援など、活動範囲は幅広く！

あいにくの雨天となった今年度のミニ秋祭りは、室内で卓球大会やカルタ大会も行われ、年齢関係なく楽しんだ。

●発行元・問合せ先　社会福祉法人福島県社会福祉協議会　いきいき長寿課
〒960-8141　福島市渡利字七社宮字111番地　福島県総合社会福祉センター３階　TEL（024)524－2224　FAX（024)524－2228